

46 信仰者たちよ、ユダヤ教徒とキリスト教徒たちとは、最良の方法によってでしか、対話や議論してはならない。それは訓戒と、明白な根拠による伝道である。ただし、頑固さと高慢さから不正を行い、あなたがたに戦いを布告した者たちは別であり、かれらがイスラームを受け入れるか、惨めにもジズヤ(人頭税)を支払うかするまで、戦うがよい。そしてユダヤ教徒とキリスト教徒たちに、言うのだ。「わたしたちはアッラーがわたしたちに下したクルアーンと、かれがあなたがたに下した律法と福音を信じた。わたしたちの神とあなたがたの神は一つで、その神性、主性、完全性においていかなる共同者もない。わたしたちはかれにのみ、身を低めて服従する。」

47 われらはあなた以前の者に諸啓典を下したように、あなたにもクルアーンを下した。アブドラー・ブン・サラームのように、律法を読むそれらの者たちの何人かは、それ(クルアーン)を信じるし、多神教徒たちの内でもそのような者がいる。われらの印を否定するのは、不信仰を習いとし、明らかな真理を否定する不信仰者だけである。

48 使徒よ、あなたはクルアーン以前、いかなる啓典も読んでいなかったし、あなたの右手で何かを書くこともなかった。あなたは文字の読み書きが出来ない、文盲だった。もし読み書きが出来ていたら、無知な者たちはあなたの預言者性に疑念を抱き、過去の啓典から書き写したのだと理由づけをしただろう。

49 いや、あなたに下されたクルアーンは、知識を授かった信仰者たちの胸の中の、明らかな印なのだ。われらの印を否定するのは、アッラーの不信仰と多神によって自らに不正を犯す者たちだけなのである。

50 多神教徒たちは言った。「過去の使徒たちに下されたように、ムハンマドにも主からの印(奇跡)は下されないのか?」使徒よ、そのようなことを要望する者たちに加え。「印はアッラーの御手に委ねられている。かれがそれをお望みの者に下すのであり、わたしが下すことは出来ない。わたしはあなたがたに対して、アッラーの罰を明白な形で警告する者に過ぎない。」

51 使徒よ、かれら奇跡を要望する者たちには、かれらに読んで聞かされるクルアーンをあなたに下したことで、十分ではないのか?かれらに対して下されたクルアーンの中には、信仰する民にとっての慈悲と教訓があるのであり、かれらこそがそれを役立てるのだ。かれらに下されたもの(クルアーン)は、かれらが要望している、過去の使徒たちに下された同様のものよりも良いのである。

52 使徒よ、言え。「わたしが伝えることにおいて、わたしが正直であること、そしてそれに関してあなたがたが嘘言ばかりしていることについては、アッラーだけで十分な証人である。かれは天にあることも地にあることもご存知で、すべてお見通しである。アッラーをよそに崇拜されているような迷妄を信じ、唯一崇拜に値するアッラーを否定する者たちこそは、損失者である。かれらは信仰と引き換えに、不信仰を手に入れたのだ。」

本諸節の功德:

- 啓典の民との議論は、最善のやり方でなされる。
- すべての使徒と啓典を差別することなく信じることは、正しい信仰の条件である。
- クルアーンは、預言者の正直さを証明する永遠の印であり、証拠である。

﴿٤٦﴾ وَلَا تَجِدُوا أَهْلَ الْكِتَابِ إِلَّا بِالَّتِي هِيَ أَحْسَنُ إِلَّا الَّذِينَ ظَلَمُوا مِنْهُمْ وَقُولُوا آمَنَّا بِالَّذِي أُنزِلَ إِلَيْنَا وَأُنزِلَ إِلَيْكُمْ وَإِلَهُنَا وَإِلَهُكُمْ وَاحِدٌ وَنَحْنُ لَهُ مُسْلِمُونَ ﴿٤٦﴾ وَكَذَلِكَ أَنْزَلْنَا إِلَيْكَ الْكِتَابَ فَالَّذِينَ آتَيْنَاهُمُ الْكِتَابَ يُؤْمِنُونَ بِهِ وَمِنْ هَؤُلَاءِ مَنْ يُؤْمِنُ بِهِ وَمَا يَجْحَدُ بِآيَاتِنَا إِلَّا الْكَافِرُونَ ﴿٤٧﴾ وَمَا كُنْتَ تَتْلُو مِنْ قَبْلِهِ مِنْ كِتَابٍ وَلَا تَخِطُّهُ وَبِمِيمِنِكَ إِذَا لَا تَرْتَابَ الْمُبْطِلُونَ ﴿٤٨﴾ بَلْ هُوَ آيَةٌ بَيِّنَةٌ فِي صُدُورِ الَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ وَمَا يَجْحَدُ بِآيَاتِنَا إِلَّا الظَّالِمُونَ ﴿٤٩﴾ وَقَالُوا لَوْلَا أَنْزَلَ عَلَيْهِ آيَاتٌ مِنْ رَبِّهِ قُلْ إِنَّمَا الْآيَاتُ عِنْدَ اللَّهِ وَإِنَّمَا أَنَا نَذِيرٌ مُبِينٌ ﴿٥٠﴾ أَوَلَمْ يَكْفِ لَهُمْ أَنَّا أَنْزَلْنَا عَلَيْكَ الْكِتَابَ يُتْلَى عَلَيْهِمْ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَرَحْمَةً وَذِكْرَى لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٥١﴾ قُلْ كَفَى بِاللَّهِ بَيْنِي وَبَيْنَكُمْ شَهِيدًا يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَالَّذِينَ آمَنُوا بِالْبَاطِلِ وَكَفَرُوا بِاللَّهِ أُولَئِكَ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿٥٢﴾

وَيَسْتَعْجِلُونَكَ بِالْعَذَابِ وَلَوْلَا أَجَلٌ مُّسَمًّى لَّجَاءَهُمُ الْعَذَابُ
 وَلِيَأْتِيَنَّهُمْ بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٥٣﴾ يَسْتَعْجِلُونَكَ بِالْعَذَابِ
 وَإِنَّ جَهَنَّمَ لَمُحِيطَةٌ بِالْكَافِرِينَ ﴿٥٤﴾ نَوْمَ يَغْشَاهُمْ الْعَذَابُ
 مِنْ فَوْقِهِمْ وَمِنْ تَحْتِ أَرْجُلِهِمْ وَيَقُولُ ذُو قُوَّةٍ مَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ
 ﴿٥٥﴾ يَعْبَادِي الَّذِينَ آمَنُوا إِنَّ أَرْضِي وَاسِعَةٌ فَإِنِّي سَأَلْتُ الْعَبْدُونَ
 ﴿٥٦﴾ كُلُّ نَفْسٍ ذَائِقَةُ الْمَوْتِ ثُمَّ إِنِّي أَنْتَرْتُمُ الْجَحِيمَ وَالَّذِينَ
 ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَنُبَوِّئَنَّهُمْ مِنَ الْجَنَّةِ غُرًّا فَاصْتَبَرُوا
 مِنْ تَحْتِهَا أَلَّا يَنْهَرُ خَلَائِدِينَ فِيهَا يَعْمُرُ أَعْرَابًا مَلِكِينَ ﴿٥٨﴾ الَّذِينَ
 صَبَرُوا وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ يَتَوَكَّلُونَ ﴿٥٩﴾ وَكَأَيِّنْ مِنْ دَابَّةٍ لَّا تَحْمِلُ
 رَزْقَهَا اللَّهُ يَتَزَكَّرُ لَهَا وَيَأْتِيكُمُوهَا وَهُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿٦٠﴾ وَلَئِن
 سَأَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَسَخَّرَ الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ
 لَيَقُولُنَّ اللَّهُ فَأَنَّى يُؤْفَكُونَ ﴿٦١﴾ اللَّهُ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ مِنْ
 عِبَادِهِ وَيَقْدِرُ لَهُ إِنَّ اللَّهَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٦٢﴾ وَلَئِن سَأَلْتَهُمْ
 مَنْ نَزَّلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَحْيَا بِهِ الْأَرْضَ مِنْ بَعْدِ مَوْتِهَا
 لَيَقُولُنَّ اللَّهُ قُلِ الْحَمْدُ لِلَّهِ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْقِلُونَ ﴿٦٣﴾

〔53〕使徒よ、多神教徒たちはあなたが警告した罰を、早く下してみよと言う。もしアッラーがかれらの罰に関し、早まることも遅れることもない定刻を定めていなかったら、かれらには罰が降りかかっただろう。そしてそれはかれらの予想に反し、突然襲いかかっただろう。

〔54〕かれらはあなたが警告した罰を、早く下してみよと言う。アッラーが不信仰者たちに約束した地獄は、かれらを包囲している。かれらはその罰から逃れることは出来ない。

〔55〕その日、罰は、上方からはかれらを覆い、足元からはかれらを包み込む敷布となる。アッラーはかれらを咎めて、こう言う。「多神と罪を行っていたことの報いを、味わえ。」

〔56〕われを信じる僕たちよ、われを崇拜することが出来ない土地から移住せよ。わが大地は広いのであるから、われのみを崇拜せよ。われに何ものをも並べてはならない。

〔57〕死への恐怖が、あなたがたを移住から阻んではならない。すべての者は死を味わうのであり、それから審判の日に清算と報いのため、われらのもとに返されるのである。

〔58〕アッラーを信じ、かれへと近づける善行を行う者たちを、われらは天国の部屋に住ませよう。その下からは河川が流れており、かれらはそこに永遠に留まる。かれらはそこで消えゆくこともない。アッラーの服従に勤しむ者たちの報いは、何と素晴らしいことか。

〔59〕アッラーの服従と、罪の抑制において忍耐し、あらゆる物事において主のみに委ねる勤行者たちの報いは、素晴らしいものである。

〔60〕あらゆる生き物は自らの糧を集め、運ぶことも出来ないが、アッラーがそれらとあなたがたに糧を授けるのだ。だから飢えを恐れて移住しないことを、正当化することは出来ない。かれはあなたがたの言葉を聞き、あなたがたの意図と行いをご存知のお方。かれはすべてお見通しで、あなたがたに報われる。

〔61〕使徒よ、もし多神教徒たちに「天地を創造したのは誰か？太陽と月を交代させながら仕えさせたのは、誰か？」と尋ねれば、かれらは答えるだろう。「それらを創造したのはアッラーだ。」それでは何がかれらを、アッラーだけを信仰することから遠ざけ、かれをよそに、益することも害することもしない神々を崇拜させるのか？

〔62〕アッラーは、かれがご存知の英知に則って、お望みの僕の糧を豊かにし、お望みの者の糧を少なくする。アッラーはすべてをご存知のお方であり、僕たちに有益な采配についてお見通しのお方。

〔63〕使徒よ、もし多神教徒たちに「天から雨を降らせ、それによって乾いた大地から芽吹かせるのは、誰か？」と尋ねれば、かれらは答えるだろう。「天から雨を降らせ、それによって乾いた大地から芽吹かせるのはアッラーである。」使徒よ、言え。「あなたがたに証拠を示されたアッラーに称賛あれ。」かれらの多くは理解しないのだ。もし理解するのであれば、益することも害することも無い偶像を、アッラーに並べることなどしなかっただろう。

本諸節の功德:

- 罰が下るのを急ぐことは、不信仰者の愚かさの印である。
- 宗教的な安泰を意図した移住の扉は、開かれている。
- 忍耐と、アッラーに委ねることの徳。
- アッラーだけを実際に崇拜することなしに、その主性だけ認めていても、救いと信仰にはつながらない。

④④ この現世の生活は、そこにある欲望も享樂も、そこに執着する者たちの心にとって戯れでしかない。それはすぐ終わってしまうものだ。だが来世こそは、永続する真の生活なのである。かれらがもし知っていたなら、永続するものよりも消え去るものを優先することはなかっただろう。

多神教徒たちは、誰が天地を創造したのかと聞かれれば、アッラーの主性を信じる言明をする一方、**かれ**に他のものを並べて崇拜することで、**かれ**の神性を否定する。アッラーはかれらのこのような矛盾を描写した後、別の矛盾点を取り上げる。それは溺死の恐怖の際、かれらはアッラーだけに真摯に祈るが、安全になると多神教に戻ってしまうことである。アッラーは言う。

④⑤ 多神教徒たちは海で船に乗れば、溺死から助かるため、アッラーだけに真摯に祈る。だが溺死から助かると多神教に戻り、**かれ**に他の神々を並べて祈るのだ。

④⑥ かれらは多神教徒に戻って、**われら**が与えた恩恵に対して恩知らずになり、きらびやかな現世の生活を楽しむ。かれらは死んだ時、自分たちの悪い結末を知ることになる。

④⑦ 溺死から救ってもらうというアッラーの恩恵を否定する者たちは、清い地(マッカのハラム)というもう一つの恩恵を見ないのか?かれら以外の者たちが争いのなかにあり、殺害、捕囚、女性・子息・財産の略奪の憂き目にあっているのに、かれらは清い地で生命や財産が安全な状態にあるのだ。かれらは偽の神々という虚妄を信じ、アッラーの恩恵を否定するのか?それに対してアッラーに感謝しないのか?

④⑧ アッラーに共同者がいるという嘘を捏造したり、使徒がもたらした真理を嘘よばわりしたりする者より、ひどい不正を働く者がいようか?地獄が不信仰者とそれに類する者たちの住まいであることに、疑いの余地はない。

④⑨ **われら**の満足を求めて奮闘する者たちを、**われら**は真っ直ぐな道に導いてやろう。アッラーは援助と勝利と導きによって、善行者たちと共にある。

وَمَا هَذِهِ الْحَيَاةُ الدُّنْيَا إِلَّا لَهُمُوعْبٌ وَإِنَّ الدَّارَ الْآخِرَةَ أَهْيَٰ
 الْحَيَاةُ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿٦٥﴾ فَإِذَا رَكِبُوا فِي الْفُلِكِ دَعَاوُ اللَّهَ
 مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ فَلَمَّا نَجَّاهُمْ إِلَى الْبَرِّ إِذَا هُمْ يُشْرِكُونَ ﴿٦٦﴾
 لِيَكْفُرُوا بِمَا آتَيْنَاهُمْ وَلِيَتَمَتَّعُوا فَسَوْفَ يَعْلَمُونَ ﴿٦٧﴾
 أَوْ لَمْ يَرَوْا أَنَّا جَعَلْنَا حَرَمًا مَاءً آمِنًا وَيَتَّخِطُّفُ النَّاسُ مِنْ
 حَوْلِهِمْ أَفِيَ الْبَطْلِ يُؤْمِنُونَ وَبِنِعْمَةِ اللَّهِ يَكْفُرُونَ ﴿٦٨﴾
 وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ افْتَرَىٰ عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أَوْ كَذَّبَ بِالْحَقِّ لَمَّا جَاءَهُ
 أَلَيْسَ فِي جَهَنَّمَ مَثْوًى لِّلْكَافِرِينَ ﴿٦٩﴾ وَالَّذِينَ جَاهَدُوا
 فِيْنَا لَنَهْدِيَنَّهُمْ سُبُلَنَا وَإِنَّ اللَّهَ لَمَعَ الْمُحْسِنِينَ ﴿٧٠﴾

سورة الروم

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْمَرَّةِ ﴿١﴾ عَلِيَّتِ الرُّومِ ﴿٢﴾ فِي أَدْنَى الْأَرْضِ وَهُمْ مِّنْ
 بَعْدِ غَلَبِهِمْ سَيَغْلِبُونَ ﴿٣﴾ فِي بَضْعِ سِنِينَ ۗ لِلَّهِ الْأَمْرُ
 مِنْ قَبْلُ وَمِنْ بَعْدُ وَيَوْمَئِذٍ يَفْرَحُ الْمُؤْمِنُونَ ﴿٤﴾
 بَنَصْرِ اللَّهِ يَنْصُرُ مَنْ يَشَاءُ وَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿٥﴾

30. 東ローマ人章(アッ・ROOM)

マッカ啓示

本章の趣旨:

万事の采配は至高なるアッラーにのみ属することを確認し、創造におけるアッラーの慣行の説明する。

説明:

- ① 「アリフ・ラーム・ミーム」については、雌牛章冒頭に同様のアーヤの説明あり。
- ② ペルシャ人たちは、東ローマ人たちに勝利した。
- ③ ペルシャの地に最も近いシャームの地において、そして東ローマ人たちは敗北の後、ペルシャ人たちに勝利を収めることになる。
- ④ 3年から10年の間に、東ローマ人たちの勝利の前でも後でも、全ての物事はアッラーに属する。東ローマ人たちがペルシャ人たちに勝利する日、信仰者たちは喜ぶだろう。
- ⑤ 啓典の民である東ローマ人たちに対するアッラーの勝利に、かれらは喜ぶのだ。アッラーはお望みの者をお望みの者に対し、勝利させるお方。**かれ**は誰にも制圧されない偉大なお方であり、信仰する僕たちに慈悲ぶかいお方。

本諸節の功德:

- 多神教徒たちは苦難の時にはアッラーへと避難し、偶像を忘れるが、安泰な時には多神を拝する。これは、かれらの混乱した状態を表している。
- アッラーの道において奮闘することは、真理へ導かれる要因の一つである。
- クルアーンが未知の出来事を伝えるのは、それがアッラー由来であることの証拠である。

وَعَدَ اللَّهُ لَا يَخْلِفُ اللَّهُ وَعْدَهُ وَلَكِنْ أَكْثَرُ النَّاسِ لَا يَعْمُرُونَ ﴿٦٦﴾ يَعْلَمُونَ ظَاهِرًا مِّنَ الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَهُمْ عَنِ الْآخِرَةِ هُمْ غَفْلُونَ ﴿٦٧﴾ أُولَئِكَ يَتَفَكَّرُونَ فِي أَنفُسِهِمْ مَا خَلَقَ اللَّهُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا إِلَّا بِالْحَقِّ وَأَجَلٍ مُّسَمًّى وَإِنَّ كَثِيرًا مِّنَ النَّاسِ بِلِقَائِي رَبِّهِمْ لَكَافِرُونَ ﴿٦٨﴾ أَوَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ كَانُوا أَشَدَّ مِنْهُمْ قُوَّةً وَأَثَارُوا الْأَرْضَ وَعَمَرُوهَا أَكْثَرَ مِمَّا عَمَرُوهَا وَجَاءَتْهُمْ رُسُلُهُم بِالْبَيِّنَاتِ فَمَا كَانُوا لِيُظْلَمَهُمْ وَلَكِن كَانُوا أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿٦٩﴾ ثُمَّ كَانَتْ عَاقِبَةُ الَّذِينَ اسْتَفْتَوْا السَّمَوَاتِ أَن كَذَّبُوا بِآيَاتِ اللَّهِ وَكَانُوا بِهَا يَسْتَهْزِئُونَ ﴿٧٠﴾ اللَّهُ يَبْدَأُ الْخَلْقَ ثُمَّ يُعِيدُهُ ثُمَّ إِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٧١﴾ وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُبْلِسُ الْمُجْرِمُونَ ﴿٧٢﴾ وَلَمْ يَكُن لَّهُمْ مِّنْ شُرَكَائِهِمْ شُفَعَاءٌ وَكَانُوا بِشُرَكَائِهِمْ كَافِرِينَ ﴿٧٣﴾ وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُومِّدُ يَتَفَرَّقُونَ ﴿٧٤﴾ فَأَمَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَهُمْ فِي رَوْضَةٍ يُحْبَرُونَ ﴿٧٥﴾

⑥ この勝利はアッラーからの約束で、それに違反されることはない。その実現によって信仰者たちは、アッラーからの勝利の約束に確信を高める。だが多くの人は不信仰のため、このことを理解しない。

⑦ かれらは信仰も、法規定も知らない。かれらはこの世において、生活の糧を得ることや物質文明の建設に関わる表面的なことについては知っているが、真の生活である来世には不注意にも背を向けている。

⑧ かれら嘘呼ばわりしている多神教徒たちは、アッラーがかれらと、その他のものをいかに創造したのか、考えなかったのか？アッラーは天地を真理によって創造したのであり、無意味に創ったのではない。かれは、それらが現世で存続する一定の期間を設けた。多くの人は、審判の日に主とまみえることを否定している。だから主を喜ばせる善行によって、復活に備えることもない。

⑨ かれらは、かれら以前の嘘よばわりをした民の最期がどんなものだったのか熟考するため、地上を旅しなかったのか？それらの民はかれらより強力で、農業と建設のために土地を耕し、かれらよりも多くのものを建設したのだ。かれらのもとにアッラーの唯一性を示す明証をもった使徒たちがやって来たが、かれらはそれを嘘とした。かれらを滅ぼした時、アッラーがかれらに対して不正を行ったのではない。かれらが不信仰のため、滅亡の原因となることを行っていたことで、自らに不正を行っていたのだ。

⑩ アッラーに対する多神教と悪行を行っていた者たちの最期は、最悪の最期だった。かれらはアッラーの印を嘘とし、それを嘲笑していたからだ。

⑪ アッラーは前例のない形で創造を始め、その後それを消滅させ、更には復活させる。あなたがたは審判の日、清算と報いのため、かれのもとに返されるのだ。

⑫ 審判が起る日、罪深い者たちはアッラーに対する不信仰の言い訳が出来ない状態になり、アッラーの慈悲から絶望する。

⑬ かれらが現世で崇拝していた共同者たちのなかには、かれらを罰から救うために執り成してくれる者などいない。かれらは共同者たちを否定する。かれらは皆、共に破滅のなかにあるのであり、かれら(共同者たち)はかれら(アッラーをよそに共同者を崇拝していた者たち)が必要としている時に、かれらを見捨てるのである。

⑭ 審判が起る日、人々は現世での行いに応じて、その報いを三々五々に受け取る。ある者は高い位階に上げられ、ある者は最底辺にまで下げられる。

⑮ アッラーを信じ、かれを喜ばせる善行を行っていた者たちは、天国のなかにいる。決して断たれることのない永遠の安寧を受け取り、喜んでいる。

本諸節の功德:

- 来世を益することに不注意な状態にある限り、現世を益する知識は役に立たない。
- 人間自身と広大な自然のなかにあるアッラーの印だけで、アッラーの唯一性を示すのに十分である。
- 不正は、過去の民の滅亡の原因である。
- 審判の日、アッラーは信仰者を高め、不信仰者を低める。

16 アッラーを否定し、その使徒に下されたわれらのアッラーと復活と清算を嘘よばわりした者たちは、罰へと連れて行かれ、そこから離れることはない。

17 夜になった時(マグリブとイシャーの時間)にアッラーを賛美し、朝になった時(ファジュールの時間)にもかれを賛美せよ。

18 かれにのみ、称賛は属する。天では天使たちがかれを称賛し、地ではかれの被造物がかれを称賛する。夕刻(アスルの時間)にかれを賛美し、ズフルの時間に入った時にもかれを賛美せよ。

19 かれは、精液から人間、卵からひな鳥といったように、死んだものから生きたものを取り出す。また、人間から精液、鶏から卵といったように、生きたものから死んだものを取り出す。かれは雨を降らし、植物を生育させることで、乾いた大地を生き返す。大地が植物で息を吹き返すように、あなたがたは清算と報いのために墓場から出されるのだ。

20 人々よ、アッラーは、あなたがたの父祖アダムを土から創ったが、それはあなたがたもまた土から創られたことに等しい。それからあなたがたは生殖によって増殖し、東西へと広まったが、このことはアッラーの力と唯一性を示す、かれの偉大な印の一つである。

21 男性たちよ、アッラーはあなたがたのため、あなたがたの内から妻を創った。それはあなたがたが円満な関係によって、彼女らに和みを見出すため。かれはあなたがたの間に、愛情と思いやりの念を設けた。このなかには、熟考する民への明証がある。かれらこそは理性を働かせることから益を得る者たちなのだ。

22 天地の創造、あなたがたの言語の違い、色の違いは、アッラーの力と唯一性を示す、かれの偉大な印の一つである。そこには知識と英知の民への明証がある。

23 あなたがたが仕事の疲れから安らぐための昼夜の睡眠は、アッラーの力と唯一性を示す、かれの偉大な印の一つである。また、あなたがたが主からの糧を求めて散開するため、かれがあなたがたのために昼を創ったのも、かれの偉大な印の一つである。このなかには、熟考と受容をもって耳を傾ける民にとっての明証がある。

24 かれはあなたがたに天で稲妻を見せ、あなたがたに落雷の恐怖と雨への希望を起こさせる。また、天から雨水を降らせ、乾いた大地に植物を生育させて生き返すが、これはアッラーの力と唯一性を示す、かれの偉大な印の一つである。このなかには、死後に清算と報いのための復活があるということを結論づける、理性的な民への明証がある。

本諸節の功德:

- 礼拝や賛美に多くの時間を費やすことは、よい結末の印である。
- アッラーは死から生を、生から死を創造する。こうした生命の反復は、復活の証明である。
- アッラーから与えられた感覚や精神といったツールを用いなければ、人間自身と広大な自然のなかにあるアッラーの印を役立てることは出来ない。

وَأَمَّا الَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا وَلِقَاءِ الْآخِرَةِ
فَأُولَٰئِكَ فِي الْعَذَابِ مُحْضَرُونَ ﴿١٦﴾ فَسُبْحَانَ اللَّهِ حِينَ تُمْسُونَ
وَحِينَ تَصْبِحُونَ ﴿١٧﴾ وَلَهُ الْحَمْدُ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ
وَعَشِيًّا وَحِينَ تُظْهِرُونَ ﴿١٨﴾ يُخْرِجُ الْحَيَّ مِنَ الْمَيِّتِ وَيُخْرِجُ
الْمَيِّتَ مِنَ الْحَيِّ وَيُحْيِي الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا وَكَذَٰلِكَ تُخْرَجُونَ
﴿١٩﴾ وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ خَلَقَكُمْ مِنْ تُرَابٍ ثُمَّ إِذَا أَنْتُمْ بَشَرٌ
تَنْتَشِرُونَ ﴿٢٠﴾ وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ خَلَقَ لَكُمْ مِنْ أَنْفُسِكُمْ
أَزْوَاجًا لِتَسْكُنُوا إِلَيْهَا وَجَعَلَ بَيْنَكُمْ مَوَدَّةً وَرَحْمَةً
إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿٢١﴾ وَمِنْ آيَاتِهِ
خَلْقُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَأَخْتِلَافُ أَلْسِنَتِكُمْ وَاللُّوِينِكُمْ
إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَاتٍ لِّلْعَالَمِينَ ﴿٢٢﴾ وَمِنْ آيَاتِهِ مَنَامُكُمْ
بِالْأَيْلِ وَالنَّهَارِ وَآبَتِغَاؤُكُمْ مِنْ فَضْلِهِ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ
لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يَسْمَعُونَ ﴿٢٣﴾ وَمِنْ آيَاتِهِ يُرِيكُمْ الْبَرْقَ
خَوْفًا وَطَمَعًا وَيُنزِلُ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَيُحْيِي بِهِ الْأَرْضَ
بَعْدَ مَوْتِهَا إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿٢٤﴾

وَمِنْ آيَاتِهِ أَنْ تَقُومَ السَّمَاءُ وَالْأَرْضُ بِأَمْرِهِ ثُمَّ إِذَا دَعَاكُمُ
دَعْوَةً مِنَ الْأَرْضِ إِذْ أَنْتُمْ فَرِحُونَ ﴿٣٥﴾ وَلَهُ مَنْ فِي السَّمَوَاتِ
وَالْأَرْضِ كُلُّ لَهٍ وَقَلْبَتُونَ ﴿٣٦﴾ وَهُوَ الَّذِي بَدَأَ الْخَلْقَ ثُمَّ
يُعِيدُهُ وَهُوَ أَهْوَنُ عَلَيْهِ وَلَهُ الْمَثَلُ الْأَعْلَىٰ فِي السَّمَوَاتِ
وَالْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٣٧﴾ صَرَبَ لَكُمْ مَثَلًا
مِّنْ أَنفُسِكُمْ هَلْ لَكُمْ مِّنْ مَا مَلَكَتْ أَيْمَانُكُمْ مِّنْ
شُرَكَاءَ فِي مَا رَزَقْتَكُمْ فَأَنْتُمْ فِيهِ سَوَاءٌ تَخَافُونَهُمْ
كَخِيفَتِكُمْ أَنفُسَكُمْ كَذَلِكَ نَقِصُّلُ الْآيَاتِ لِقَوْمٍ
يَعْقِلُونَ ﴿٣٨﴾ بَلِ اتَّبَعَ الَّذِينَ ظَلَمُوا أَهْوَاءَ هُمْ يَغْيِرُونَ عَلَيْهِ
فَمَنْ يَهْدِي مَنْ أَضَلَّ اللَّهُ وَمَا لَهُمْ مِّنْ نَّصِيرِينَ ﴿٣٩﴾ فَأَقْرَبُ
وَجْهَكَ لِلدِّينِ حَنِيفًا فِطْرَتَ اللَّهِ الَّتِي فَطَرَ النَّاسَ عَلَيْهَا
لَا تَبْدِيلَ لِخَلْقِ اللَّهِ ذَٰلِكَ الدِّينُ الْقَيِّمُ وَلَكِنَّ أَكْثَرَ
النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٠﴾ *مُنِيبِينَ إِلَيْهِ وَاتَّقُوهُ وَأَقِيمُوا
الصَّلَاةَ وَلَا تَكُونُوا مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿٤١﴾ مِنَ الَّذِينَ قَرَأُوا
دِينَهُمْ وَكَانُوا شَيْعًا كُلُّ حِزْبٍ بِمَا لَدَيْهِمْ فَرِحُونَ ﴿٤٢﴾

سَبْعُ
الْحِزْبِ

くれる援助者などいないのだ。

〔30〕使徒よ、あなたとあなたと共にある者は、あらゆる宗教を離れ、アッラーがあなたをそこへと方向づけた宗教へと向かえ。**かれ**が人々の天性がそこへと向かうようにさせた、イスラームの宗教へと。アッラーの創造に改変はない。それこそ歪んだところのない、真っ直ぐな宗教。しかし多くの人々は、真理の宗教がこの宗教だということを知らない。

〔31〕罪からの悔悟と共に**かれ**のもとへと立ち返り、そのご命令と禁止事項を守ることで主を恐れ、礼拝を完全な形で遂行せよ。天性に逆行し、アッラーの崇拝に共同者を置く多神教徒たちとはなるな。

〔32〕自らの宗教を改変し、その一部のみを信じて他の部分を否定し、分裂することになった、多神教徒となるのではない。かれらの党派は自分たちだけが真実の上であり、他の者たちは虚妄の上にあるとして、各々の虚妄に嬉々としている。

本諸節の功德:

- アッラーの全ての被造物は、望もうと望まいと、かれに服従している。
- 創造の開始は、復活についての画然とした証拠である。
- 私欲は迷わせ、放縦にさせる。
- イスラームの宗教は、健全な天性の宗教である。

〔25〕**かれ**の命令により、天は落下せず、大地は崩れることなく維持されているのは、アッラーの力と唯一性を示す、**かれ**の偉大な印の一つである。それから**かれ**は、天使に角笛を吹かせ、あなたがたを地中から呼ぶ。するとあなたがたは清算と報いのため、墓場から出てくるのだ。

〔26〕天地にあるものは、主権と創造と定めにおいて、**かれ**にのみ属する。天地にある全ての被造物は、**かれ**と**かれ**の命令にのみ服従する。

〔27〕**かれ**は前例のない形で創造を始め、それを消滅させた後に復活させる。復活させるのは開始することより易しい。**かれ**は何か望めば「あれ」と言うだけでそうなるので、全ては**かれ**にとって易しいのである。**かれ**にこそ、**かれ**が描写される全ての荘厳で完全な属性のうち、最高の属性が属する。**かれ**は誰にも制圧されない偉大なお方であり、その創造と采配において英知あふれるお方。

〔28〕多神教徒たちよ、アッラーはあなたがたに、あなたがた自身に関して例えを挙げる。あなたがたの奴隷が、あなたがたの財産において平等な共有者だったとしたら、あなたがたはちょうど自由民の共同者によって自分の財産を分割されることを恐れるように、かれらがあなたがたの財産を分割することを恐れるだろう。あなたがたは自分たちの奴隷がそうすることを、喜ぶのか？喜ばないことに、疑いはないだろう。アッラーがその王権において、**かれ**の被造物や僕たちの内から共同者があるべきでないのは、なおさらである。このような例えを挙げるのは、**われら**が多様な明証を理性的な民に説明するため。かれらこそ、そこから益を得る者たちである。

〔29〕かれらの迷いの原因は論拠やその説明の不在ではなく、私欲の追及と父祖への盲従である。アッラーが迷わせた者を、誰が導くというのか？誰にもそのようなことは出来ない。かれらには、かれらをアッラーの罰から守って

وَإِذَا مَسَّ النَّاسَ ضُرٌّ دَعَوْا رَبَّهُمْ مُنِيبِينَ إِلَيْهِ ثُمَّ إِذَا آذَاهُمْ
 مِنْهُ رَحْمَةٌ إِذَا فَرِقُوا مِنْهُمْ بِرَبِّهِمْ يُشْرِكُونَ ﴿٣٦﴾ لِيَكْفُرُوا بِمَا
 آتَيْنَاهُمْ فَتَمَتَّعُوا فَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ﴿٣٧﴾ أَمْ أَنْزَلْنَا عَلَيْهِمْ
 سُلْطَانًا فَهُوَ يَتَكَلَّمُ بِمَا كَانُوا بِهِ يُشْرِكُونَ ﴿٣٨﴾ وَإِذَا آذَقْنَا
 النَّاسَ رَحْمَةً فَرِحُوا بِهَا وَإِنْ تُصِيبَهُمْ سَيِّئَةٌ لِمَا قَدَّمْتْ أَيْدِيَهُمْ
 إِذَا هُمْ يَقْنَطُونَ ﴿٣٩﴾ أَلَمْ يَرَوْا أَنَّ اللَّهَ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ
 وَيَقْدِرُ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٤٠﴾ فَآتَاكَ ذَا الْقُرْبَىٰ
 حَقَّهُ وَوَالِ الْمَسْكِينِ وَابْنَ السَّبِيلِ ذَلِكَ خَيْرٌ لِلَّذِينَ يُرِيدُونَ
 وَجْهَ اللَّهِ وَأُولَئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿٤١﴾ وَمَاءَ آتَيْنَاهُمْ مِنْ رِيًّا
 لِيَرْبُؤُوا فِي أَمْوَالِ النَّاسِ فَلَا يَرْبُوا عِنْدَ اللَّهِ وَمَاءَ آتَيْنَاهُمْ مِنْ
 زَكَاةٍ يُرِيدُونَ وَجْهَ اللَّهِ فَأُولَئِكَ هُمُ الْمُضْعِفُونَ ﴿٤٢﴾
 اللَّهُ الَّذِي خَلَقَكُمْ ثُمَّ رَزَقَكُمْ ثُمَّ يُعِيذُكُمْ ثُمَّ يُحْيِيكُمْ هَلْ مِنْ
 شُرَكَاءِ كُمْ مَنْ يَفْعَلُ مِنْ ذَلِكَ كُمْ مِنْ شَيْءٍ سُبْحَانَهُ وَتَعَالَى
 عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٤٣﴾ ظَهَرَ الْفَسَادُ فِي الْبَرِّ وَالْبَحْرِ بِمَا كَسَبَتْ
 أَيْدِي النَّاسِ لِيُذِيقَهُمْ بَعْضَ الَّذِي عَمِلُوا لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٤٤﴾

33) 多神教徒たちは、病気、貧困、旱魃といった災難が降りかかると、主だけに祈り、**かれ**に悔悟し、災難を取り除いてくれるよう、懇願する。だが、**かれ**が災難の除去によってかれらに慈悲をかけると、かれらの一団はアッラーに並べて他のものを祈ることへと戻ってしまう。

34) 災難の除去といったアッラーの恩恵を否定し、この人生にあるものを楽しんでいるなら、かれらは審判の日、自分たちが明らかな迷いのなかにあったということを目前に見ることになる。

35) 根拠もなく、アッラーに対する多神へとかれらを駆り立てたものは、何なのか？**われら**は、かれらがアッラーに対する多神の根拠とするような啓典を、かれらに下したりはしなかった。かれらには、多神について語り、かれらの不信仰の正しさを認めるような啓典はない。

36) **われら**が人々に健康や豊かさなどの恩恵を与えてやれば、かれらは喜んで高慢になる。だが、かれらが犯している罪のせいで病気や貧困などの災難に襲われれば、かれらはアッラーの慈悲に失望し、災難が立ち去ることから絶望する。

37) かれらはアッラーが、感謝するか恩知らずになるかを試すため、お望みの僕の糧を増やしてやるのを見なかったのか？また、忍耐するか恨めしく思うかを試すため、かれがお望みの者の糧を少なくするのを？ある者の糧を増やし、別の者の糧を減らすのは、アッラーのやさしさと慈悲を表す、信仰者への印なのである。

38) ムスリムよ、近親の者に対してはかれらにふさわしい善行をし、恵まれない者にはかれらの必要を満たすものを与え、故郷を離れて旅している異国の者には施せ。アッラーのお顔を望む者にとっては、そのようなことに施す方がよいのだ。このような助けや権利を遂行する者たちこそは、切望する天国を手にし、恐れている罰からの無事を得る、勝利者なのだ。

アッラーへと近づける行いの説明の後、そこにおける誤った方法について描写される。実は、それは安っぽい現世的目的を意図したものである。アッラーは言う。

39) あなたがたが、それ以上のものを返してもらうことを望んで人々に差し出すお金は、アッラーのもとでの褒美を増やしはしない。人々のもとでの地位や見返りを求めず、アッラーのお顔を望み、それによって必要を満たせる者にお金を与えるのなら、それがアッラーのもとでの褒美を倍増させられる者たちである。

40) あなたがたを創造し、糧を授け、それから死なせ、また復活のために生を与えるのは、アッラーだけ。あなたがたが**かれ**をよそに崇拜している偶像が、それらの内の一部でも出来るのか？多神教徒たちが言い、信じているようなことから、かれは無縁で崇高なお方。

41) 大地と海において悪が出現した。飢饉や少ない雨、そして疾患や疫病が起こる。それは人々が犯した罪のためである。そしてかれらがアッラーに悔悟することを望んで、アッラーがかれらに、かれらが現世で行った悪行の一部の報いを味わわせるためである。

本諸節の功德:

- 恩恵の折には調子に乗って喜び、災難の折には慈悲を絶望するのは、不信仰者の二つの性質である。
- 権利をそれに値する者に与えるのは、成功の要因である。
- 利子の不毛性、アッラーの道において費やすことの褒美の倍増。
- 伝染病や環境破壊の広がりにおける罪の影響は、明白である。

قُلْ سِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَانظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِن قَبْلُ
 كَانَ أَكْثَرُهُم مُّشْرِكِينَ ﴿٤٧﴾ فَأَقْرَعَتْ وَجْهَكَ لِلدِّينِ الْقَيُّمِ مِن
 قَبْلِ أَن يَأْتِيَ يَوْمٌ لَا مَرَدَّ لَهُ مِنَ اللَّهِ يَوْمَئِذٍ يُصَدِّقُونَ ﴿٤٨﴾ مَن
 كَفَرَ فَعَلَيْهِ كُفْرُهُ وَمَنْ عَمِلَ صَالِحًا فَلَا نَفْسَ لَهُ يَمْهَدُونَ ﴿٤٩﴾
 لِيَجْزِيَ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ مِن فَضْلِهِ إِنَّهُ لَا يُحِبُّ
 الْكَافِرِينَ ﴿٥٠﴾ وَمِن آيَاتِهِ أَن يُرْسِلَ الرِّيحَ مُبَشِّرَاتٍ وَيُذِيقُكُمْ
 مِّن رَّحْمَتِهِ وَلِتَجْرِيَ الْأَنْهَارُ بِأَمْرِهِ وَلِتَبْتَغُوا مِن فَضْلِهِ وَعَلَّكُمْ
 تَشْكُرُونَ ﴿٥١﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا مِن قَبْلِكَ رُسُلًا إِلَى قَوْمِهِمْ فَجَاءَهُمْ
 بِالْبَيِّنَاتِ فَأَنْتَقَمْنَا مِنَ الَّذِينَ أَجْرُمْ وَأَوَّكَرْنَا نَاصِرُ
 الْمُؤْمِنِينَ ﴿٥٢﴾ اللَّهُ الَّذِي يُرْسِلُ الرِّيحَ فَتُبْرِئُ سَحَابًا قَيْسُطًا وَ
 فِي السَّمَاءِ كَيْفَ يَشَاءُ وَيَجْعَلُهُ كَيْفَ يَشَاءُ لِيُخْرِجَ مِنْ
 خَلْقِهِ قَادًا أَصَابَ بِهِ مَن يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ إِذَا هُمْ يَسْتَبْشِرُونَ
 ﴿٥٣﴾ وَإِن كَانُوا مِن قَبْلِ أَن يُنزَّلَ عَلَيْهِم مِّن قَبْلِهِ لَمُبْلِسِينَ
 ﴿٥٤﴾ فَانظُرْ إِلَى آثَرِ رَحْمَتِ اللَّهِ كَيْفَ يُحْيِي الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا
 إِنَّ ذَلِكَ لَمَحْيِ الْمَوْتِ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٥٥﴾

使徒たちのもたらしたものを嘘よばわりした。それでわれらは悪行を犯した者たちに復讐し、われらの罰によってかれらを滅ぼした。そして使徒たちと、かれらを信じた者たちを破滅から救った。信仰者たちの救いと援助は、われらが自らに課した義務だったのだ。

48) アッラーは風を送り、それによって雲を刺激して動かし、望むままにそれを薄く、あるいは濃くして天に広げ、かたまりにする。それを見る者よ、あなたはそこから雨がでて来るのを見るだろう。かれはそれをお望みの僕たちに降らせ、するとかれらはアッラーの慈悲に喜ぶ。雨が降った後には、かれら自身とかれらの家畜に必要な、大地の植物が生育するのだ。

49) アッラーがかれらに雨を降らせる前、かれらは雨が降らないことに絶望していた。

50) 使徒よ、アッラーが僕たちへの慈悲として降らせる雨の跡を見よ。アッラーがどのようにして乾燥した大地を、多様な植物によって生き返したかを。その乾燥した大地を生き返すお方こそは、死者を蘇らせるお方。かれは全能のお方であり、かれに不可能なことはない。

本諸節の功德:

- 風を送り、雨を降らし、船を海に走らせるのは、感謝すべきアッラーの恩恵である。
- 罪深い者たちの滅亡と信仰者たちの勝利は、神的な法則である。
- 乾いた大地に植物が生育することは、復活の一つの証拠である。

47) 使徒よ、かれら多神教徒たちに言え。大地を歩き、あなたがた以前の嘘よばわりした民の末路がどのようなものだったかを熟考せよ。それは悪い結末だった。かれらの多くはアッラーに他のものを並べて崇拜するもので、それが原因で破滅したのだ。

48) 使徒よ、到来すれば押し戻すことの出来ない審判の日が来る前に、あなたの顔を歪みのない真っ直ぐな宗教、イスラームへと向けよ。その日、人々は分断される。ある集団は天国で安寧を授かり、別の集団は地獄で罰される。

49) アッラーを否定する者の不信仰による害は、自分に返って来る。それは永遠の地獄である。他方、アッラーのお顔を求めて善行を行う者は、自分たちのために天国とそこでの安寧を準備しているのである。かれらはそこに永遠に留まる。

50) それはアッラーが、かれを信じ、主の恩寵と善意によってかれを喜ばせる善行を行う者たちに褒美を与えるため。かれは、かれとその使徒たちを否定する者たちをお好みにはならない。それどころか、かれらをひどくお嫌いになり、審判の日に罰される。

51) 僕たちに、雨が降る吉報を伝える風を送るのは、アッラーの力と唯一性を示す、かれの偉大な印の一つである。人々よ、それは雨の後にあなたがたが得る豊作や繁栄という、かれの慈悲を味わわせるためである。また、船がかれの意思のもとに海を進み、それによってあなたがたが海で商売をし、そこからの恵みを求めるためである。あなたがたは恐らくアッラーの恩恵を感謝し、それによって更なる恩恵を得ることだろう。

52) 使徒よ、われらはあなた以前、使徒たちをそれぞれの民に遣わした。かれら(使徒たち)はかれらのもとに、かれらの正直さを示す明証を持って到来したが、かれらは使徒

وَلَيْنَ أَرْسَلْنَا رِجَالًا بِحَافِرَاتِهِ مُصْفَرًّا لَظَلُّوا مِنْ بَعْدِهِ يَكْفُرُونَ
 ٥٦ فَإِنَّكَ لَا تَسْمِعُ الْمَوْتَى وَلَا تَسْمِعُ الْأَصْمَ الدُّعَاءَ إِذَا وَاوَلُوا
 مُدْبِرِينَ ٥٧ وَمَا آتَى بِهَذَا الْعُمَى عَنْ صَلَاتِهِمْ إِنَّ تَسْمِعُ إِلَّا
 مَنْ يُؤْمِنُ بِآيَاتِنَا فَهُمْ مُسْلِمُونَ ٥٨ * اللَّهُ الَّذِي خَلَقَكُمْ
 مِنْ ضَعْفٍ ثُمَّ جَعَلَ مِنْ بَعْدِ ضَعْفٍ قُوَّةً ثُمَّ جَعَلَ مِنْ بَعْدِ
 قُوَّةٍ ضَعْفًا وَشَيْبَةً يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ وَهُوَ الْعَلِيمُ الْقَدِيرُ
 ٥٩ وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُقْسِمُ الْمُجْرِمُونَ مَا لِيُثَوَّبَ عَنِّي
 سَاعَةً كَذَلِكَ كَانُوا يُؤْفَكُونَ ٦٠ وَقَالَ الَّذِينَ أُوتُوا
 الْعِلْمَ وَالْإِيمَانَ لَقَدْ لَبِثْنَا فِي كِتَابِ اللَّهِ إِلَى يَوْمِ الْبَعْثِ
 فَهَذَا يَوْمُ الْبَعْثِ وَلَكِنَّكُمْ كُنْتُمْ لَا تَعْلَمُونَ ٦١ فَيَوْمَئِذٍ
 لَا يُنْفَعُ الَّذِينَ ظَلَمُوا مُعْذِرَتُهُمْ وَلَا هُمْ يُسْتَعْتَبُونَ
 ٦٢ وَلَقَدْ صَرَبْنَا لِلنَّاسِ فِي هَذَا الْقُرْآنِ مِنْ كُلِّ مَثَلٍ
 وَلَيْنَ حِجَّتْهُمْ بِآيَةٍ لِيَقُولَنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا إِنْ أُنْتُمْ إِلَّا
 مُبْطِلُونَ ٦٣ كَذَلِكَ يَطْبَعُ اللَّهُ عَلَى قُلُوبِ الَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ
 ٦٤ فَاصْبِرْ إِنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ وَلَا يَسْتَخِفَّنَّكَ الَّذِينَ لَا يُوقِنُونَ ٦٥

51) ところがわれらが風を送って、作物が緑であったのが黄ばむのをかれらが見ると、その後かれらはアッラーの以前の多くの恵みに感謝を忘れて、信仰を拒否し続ける。

52) 確かにあなたは死人や聴覚のない人に聞かせることができないように、かれらが聞けないとして背き去れば、あなたはかれらに聞かせて、また導くこともできない。

53) あなたは道を誤った人をその過ちから導くこともできない。あなたはわれらの印を信じて、従う人たち(ムスリム)だけに聞かせることができるのだ。というのも、かれらだけがあなたの言うことから得るところがあり、かれらだけが従順でわれらの命令を受け入れるからだ。

54) アッラーこそはあなた方をおぞましい卑しい液体から創り、弱いものの後に強いもの(成人)にし、さらに強いものとした後に弱いもの(老人)と白髪にした。かれは強弱など御望みのものを創られる。かれは全知で何事も隠しおおせないし、その能力を超えるものはなく、全能である。

55) 清算の時が確立するその審判の日、罪深い人たちは現世もしくは墓中に一時しか留まらなかったと誓う。このように、かれらは現世において真実からは常に欺かれていたのだ。

56) でも、知識を与えられた預言者たちや天使たちは言う。あなた方はアッラーの限りない知識によって命じられたところに基づいて存在したし、復活の日まで留まった。しかしあなた方は、墓から呼び起こされるその復活の日を否定する。あなた方は復活の真実なることに気付かなかったのだ。

57) それでその日全てを復活させられて、説明されるが、不正を行った人たちの言い訳は全く役に立たない。またかれらは、その過ちを説明(改心してアッラーを喜ばす)することも求められない。そのような時間はもう過ぎてしまったのだ。

58) 確かに、われらは人類のため、このクルアーンの中においてあらゆる例えを明らかにした。そうしてかれらに対して、真実が過ちと明瞭に峻別されるためである。使徒よ、あなた(ムハンマド)がかれらに真実の印(奇跡)を持ってきても、信仰を拒否する人たちは言う、あなた方は間違いを持ってきたに過ぎないと。

59) このようにアッラーは、印を拒む人たちの心を封じ、過ちの道に導かれる。同様に、真実を拒否する不信仰者たちの心も封じられるのだ。

60) 使徒よ、だからかれらの拒否を耐え忍びなさい。誠に支援と確立のアッラーの約束は、生きている。だからしっかりした信仰心のない人たちに、あなたは性急になり、忍耐を失ってはならない。

本諸節の功德:

- 試練のたびに、不信仰者はアッラーの慈悲に失望する。
- 成功への導きはアッラーの手により、使徒のそれではない。
- 熟慮する人にとって、人生の諸段階は教訓である。
- 罪を犯せば、心が閉じられる。

آياتها ٢٤

سُورَةُ لُقْمَانَ

آياتها ٢٤

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

① تِلْكَ آيَاتُ الْكِتَابِ الْحَكِيمِ ② هُدًى وَرَحْمَةً
 ③ لِّلْمُحْسِنِينَ ④ الَّذِينَ يُقِيمُونَ الصَّلَاةَ وَيُؤْتُونَ الزَّكَاةَ وَهُمْ
 ⑤ بِالْآخِرَةِ هُمْ يُوقِنُونَ ⑥ أُولَئِكَ عَلَى هُدًى مِّن رَّبِّهِمْ وَأُولَئِكَ
 ⑦ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ⑧ وَمِنَ النَّاسِ مَن يَشْتَرِي لَهْوَ الْحَدِيثِ
 ⑨ لِيُضِلَّ عَن سَبِيلِ اللَّهِ بِغَيْرِ عِلْمٍ وَيَتَّخِذَهَا هُزُوًا أُولَئِكَ لَهُمْ
 ⑩ عَذَابٌ مُّهِينٌ ⑪ وَإِذَا تُتْلَىٰ عَلَيْهِ آيَاتُنَا وَلَّى مُسْتَكْبِرًا
 ⑫ كَأَن لَّمْ يَسْمَعْهَا كَأَنَّ فِي أُذُنَيْهِ وَقْرًا فَبَسَّشْرَهُ بَعْدَآبِ إِلَيْهِ
 ⑬ إِنَّ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ جَنَّاتٌ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا
 ⑭ أَنْهَارٌ مِنْ عَذْبٍ دَائِبٍ وَعَذْبٍ غَيْرِ دَائِبٍ وَحُمْرٌ مُّثَقَلَةٌ
 ⑮ وَخَلْدٌ مُّثَقَلَةٌ وَأَخْضَرٌ مُّثَقَلَةٌ وَأَبْيَضٌ مُّثَقَلَةٌ
 ⑯ وَالسَّمَّاتُ يَغْيَرُ عَمَدَتِ رَوْحَهَا وَالْقَمَىٰ فِي الْأَرْضِ رَوْسِيٌّ أَن قَمِيدَ
 ⑰ يَكْمُ وَيَتَّ فِيهَا مِنْ كُلِّ دَابَّةٍ وَأَنْزَلْنَا مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَنْبَتْنَا
 ⑱ فِيهَا مِنْ كُلِّ زَوْجٍ كَرِيمٍ ⑲ هَذَا خَلْقُ اللَّهِ فَأَرُونِي مَاذَا
 ⑳ خَلَقَ الَّذِينَ مِن دُونِهِ بَلِ الظَّالِمُونَ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ

本章の趣旨:

クルアーンの知恵に従うように命じ、それに反対することへの警告。

説明:

① アリフ・ラーム・ミーム。雌牛章の冒頭で、同様の文字に関して説明済み。

② 使徒よ、これらの諸節は、英知の啓典の諸節であり、
③ 善い行いをする人たちへの、導きと慈悲である。主の権利と僕たちの権利を履行する人たちだ。

④ かれらは礼拝の務めを守り、定めぬ施しをなし、そしてかれらこそ復活と来世の清算と報奨を確信する人たちである。

⑤ これらの人たちはかれらの主の導きの上であり、かれらこそ求めるものを得て、恐れるものから離れる成功者である。

アッラーは善行者について語られてから、悪行者について話される。

⑥ 人びとの中にはアルナドゥル・イブン・アルハーリスのように、娯楽話を買ひ込んで、無知にもアッラーの道から人びとを迷わせ、クルアーンを笑い草にする人びとがいる。かれらには、来世において恥すべき苦痛(懲罰)がある。

⑦ われらの印(諸節)がかれ(非信者)に読誦されると、かれはそれを聞こえないかのように、(また)耳が聞こえない人のように、高慢に背を向ける。かれには、厳しい苦痛を警告しなさい。

⑧ 確かに、信仰して善行に勤しむ人には、豊かな安楽の園があり、そこにはアッラーの用意されたすべてが見出せる。

⑨ 永遠にその中に住む。アッラーの約束は真実である。かれは敗北することはなく偉力大で、かつ創造と命令と立法において英明である。

⑩ 栄光あるかれは、あなた方に見える柱もない諸天を創り、大地があなた方をふらつかせないように、どっかりと山々を据えた。そしてそこに、多種多様な生き物を展開し、われらは空から水(雨)を降らせ、地上にあらゆる見事な植物を生育させ、人も動物もそれに受益する。

⑪ これがアッラーの創造である。だから不信仰者よ、アッラー以外のものが創造したものを、われに見せてみなさい。とんでもない。不正な人たちは、明らかな迷誤の中にいるのだ。かれらは何も創らず、自らが創られたものなのだ。

本諸節の功德:

- アッラーに帰依することに、現世と来世の成功がある。
- 正道を過らせる言動はすべて禁止される。
- 高慢であることは、真実の道から遠ざける。
- アッラーのみが創造されて、そして多神教徒たちの神々が何を創造したかについて、挑戦される。

⑫確かに、**われら**はルクマーンに宗教を理解し物事の正しさも分かるようにして、次のように言った。ルクマーンよ、アッラーに従える恵みを授かったことを感謝しなさい。誰でも感謝する人は、そうすることが自分のためのものだ。しかし忘恩な人に対してアッラーは満ち足りておられ、拒否する人には害が及ぶが、その拒否は少しもアッラーを害することはない。真にアッラーは被造物からは完全に独立されており、いつも称賛される方である。

⑬さてルクマーンが、かれの息子に善を勧め、悪を戒めて言ったときのこと。息子よ、アッラーに同位者を配してはいけない。同位者を配することは、真に重大な不正なのである。そしてそれは永遠に火獄に入る原因となる。

⑭そして**われら**は人々に対して、両親に従って、善行をするように説いたが、それはアッラーに反することでない限り。その母親は痛みに痛みを重ねて、その子を腹に抱え、離乳までに2年かけた。だから**われ**とあなたの両親に感謝しなさい。**われ**にのみに最後の帰り所があり、そこでその真価を評価するのだ。

⑮ただし、もし両親がいかげんな知識によって、**われ**に同列者を配するようにさせるなら、かれらに従ってはいけないのだ。というのは、創造主に反して被造物に従うことはありえないからだ。一般には現世ではかれらに善良にして、絆と友愛を維持して、**われ**の単一なことを信じる人たちと共に、**われ**に従いなさい。**われ**こそが、あなた方の帰り所なので、**われ**はあなた方が行ってきたことを知らせて報いるだろう。

⑯わたし(ルクマーン)の息子よ、たとえ善いことでも悪いことでも、からし種一粒の重さであっても、それが岩の中、または諸天の上、または地下にあっても、アッラーは最後の日にそれを持ち出して、僕を報いるのだ。誠にアッラーは、繊細で何事もよく知っている方で、僕に優しい方である。

⑰わたしの息子よ、礼拝の務めを完全に守り、善を勧め、悪を禁じ、あなたに降りかかるどんな苦難も耐え忍びなさい。そうするようにアッラーが命じられたのだ。そこであなたには、するとかしないとといった選択はないのである。

⑱他人にあなたの頬を傲慢に背けてはならない。また横柄に地上を歩いてはいけない。確かにアッラーは、すべてのうぬぼれた自慢屋を好まない。実際彼らを嫌悪されるのだ。

⑲そして厳かにして、穏やかに歩き、あなたの声を張り上げることなく、低くしなさい。最も無様な音は、ロバの鳴き声である。

本諸節の功德:

- 妊娠や出産といった母親の苦勞が詳細にされていることには、母親に対する一層の孝行が示されている。
- 帰依の功德と反抗の障害は、僕に降りかかるものだ。
- 子弟を教育するのは、義務の内である。
- イスラームの作法は、個人的及び集団的な行為を含む。

وَلَقَدْ آتَيْنَا لُقْمَانَ الْحِكْمَةَ أَنْ اشْكُرْ لِلَّهِ وَمَنْ يَشْكُرْ فَإِنَّمَا يَشْكُرُ لِنَفْسِهِ وَمَنْ كَفَرَ فَإِنَّ اللَّهَ غَنِيٌّ حَمِيدٌ ⑫ وَإِذْ قَالَ لُقْمَانُ لِابْنِهِ وَهُوَ يَعِظُهُ يَا بُنَيَّ لَا تُشْرِكْ بِاللَّهِ إِنَّ الشِّرْكَ لَظُلْمٌ عَظِيمٌ ⑬ وَوَصَّيْنَا الْإِسْمَاعِيلَ إِذْ قَرَّبَهُ كَحَمَلَةٍ أُمُّهُ وَهَذَا عَلَى وَهْنٍ وَفَصَّلَهُ فِي عَامَيْنِ أَنْ اشْكُرْ لِي وَلِوَالِدَيْكَ إِلَى الْمَصِيرِ ⑭ وَإِنْ جَاهَدَاكَ عَلَى أَنْ تُشْرِكَ بِي مَا لَيْسَ لَكَ بِهِ عِلْمٌ فَلَا تُطِعْهُمَا وَصَاحِبُهُمَا فِي الدُّنْيَا مَعْرُوفٌ ⑮ وَأَتَّبِعْ سَبِيلَ مَنْ أَنَابَ إِلَيَّ ثُمَّ إِلَيَّ مَرْجِعُكُمْ فَأُنَبِّئُكُمْ بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ⑯ يَا بُنَيَّ إِنِّي أَنَا تَكَ مِثْقَالَ حَبَّةٍ مِنْ خَرْدَلٍ فَتَكُنْ فِي صَخْرَةٍ أَوْ فِي السَّمَاوَاتِ أَوْ فِي الْأَرْضِ يَأْتِ بِهَا اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ لَطِيفٌ خَبِيرٌ ⑰ يَا بُنَيَّ أَقِمِ الصَّلَاةَ وَأْمُرْ بِالْمَعْرُوفِ وَانْهَ عَنِ الْمُنْكَرِ وَأَصْبِرْ عَلَى مَا أَصَابَكَ إِنَّ ذَلِكَ مِنْ عَزْمِ الْأُمُورِ ⑱ وَلَا تَصْعَقْ خَدَّكَ لِلنَّاسِ وَلَا تَمَسَّ فِي الْأَرْضِ مَرْحًا إِنَّ اللَّهَ لَا يُحِبُّ كُلَّ مُخْتَالٍ فَخُورٍ ⑳ وَأَقْصِدْ فِي مَشْيِكَ وَأَعْضُضْ مِنْ صَوْتِكَ إِنَّ أَنْكَرَ الْأَصْوَاتِ لَصَوْتُ الْحَمِيرِ ㉑

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ سَخَّرَ لَكُمْ مِمَّا فِي السَّمَوَاتِ وَمِمَّا فِي الْأَرْضِ وَأَسْبَغَ عَلَيْكُمْ نِعْمَهُ ظَهْرَهُ وَيَاطَمَةٌ وَمِنَ النَّاسِ مَنْ يُجَادِلُ فِي اللَّهِ بِغَيْرِ عِلْمٍ وَلَا هُدًى وَلَا كِتَابٍ مُبِينٍ ﴿٢٠﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ اتَّبِعُوا مَا أَنْزَلَ اللَّهُ قَالُوا بَلْ نَتَّبِعُ مَا وَجَدْنَا عَلَيْنَا آباءَ نَا أَوْلَوكَانَ الشَّيْطَانُ يَدْعُوهُمْ إِلَى الْعَذَابِ السَّعِيرِ ﴿٢١﴾ * وَمَنْ يُسَأَلْمْ وَجْهَهُ إِلَى اللَّهِ وَهُوَ مُحْسِنٌ فَقَدِ اسْتَمْسَكَ بِالْعُرْوَةِ الْوُثْقَىٰ وَإِلَى اللَّهِ عَاقِبَةُ الْأُمُورِ ﴿٢٢﴾ وَمَنْ كَفَرَ فَلَا يَحْزُنكَ كُفْرُهُ ۗ إِلَيْنَا مَرْجِعُهُمْ فَنُنَبِّئُهُم بِمَا عَمِلُوا ۗ إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿٢٣﴾ نُمَتِّعُهُمْ قَلِيلًا ثُمَّ نَضْطَرُّهُمْ إِلَىٰ عَذَابٍ غَلِيظٍ ﴿٢٤﴾ وَلَئِنْ سَأَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ لَيَقُولُنَّ اللَّهُ قُلِ الْحَمْدُ لِلَّهِ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٢٥﴾ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ ۗ إِنَّ اللَّهَ هُوَ الْغَنِيُّ الْحَمِيدُ ﴿٢٦﴾ وَلَوْ أَتَمَّنَا فِي الْأَرْضِ مِنْ شَجَرَةٍ أَقْلَمَ وَالْبَحْرِ يَمْدُهُ ۗ مِنْ بَعْدِهِ سَبْعَةُ أَبْحُرٍ مَا نَفِدَتْ كَلِمَاتُ اللَّهِ ۗ إِنَّ اللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ﴿٢٧﴾ مَا خَلَقَكُمْ وَلَا بَعَثَكُمْ إِلَّا كَفَيْسٍ وَاحِدَةً ۗ إِنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ بَصِيرٌ ﴿٢٨﴾

の無知のためである。

〔26〕諸天と地のすべてのものはアッラーに、その被造物として属する。確かに、アッラーに属し従い、アッラーは豊かに満ち足りている方で、創造を必要とされるわけではなく、現世と来世で称賛されるべき方である。

〔27〕たとえ地上のすべての木がペンで、海がインクとして7倍にされても、アッラーの言葉は無尽蔵で、書き尽くされることはない。真にアッラーは誰にも負かされず偉力大であり、創造と命令において英明なのである。

〔28〕あなた方の創造も復活も、ひとつの魂を扱うほどに容易なことである。誠にアッラーはひとつもすべても全聴であり、ひとつを見るのに他が見えないということはなく全視であり、創造や復活も同様にひとつのために他ができないということはないのだ。

本諸節の功德:

- アッラーの恵みは感謝と信仰への手立てである。不信仰のためではない。
- 盲目的な伝統墨守の危険性、特に信仰に関してはそうだ。
- アッラーに帰依して、それに従い、その満悦を得るために善行を尽くすこと。
- アッラーの言葉に終わりはない。

〔20〕あなた方は見ないのか。アッラーが諸天の太陽、月、星々などから役立たせ、地にある動物、樹木、植物などすべてのものをあなた方のために従わせ、美景といった目に見える外面も理性や知識といった内面も、かれの恩恵を十分に与えたことを。しかし人びとの中には啓示も洞察の導きも光明の啓典もないのに、アッラーの単一性に関して論争する人がいる。

〔21〕アッラーが啓示したものに従いなさいとかれらに言うとかれらはこう言い返す。いいえ、わたしたちは先祖たちのものに従うと。何と、悪魔がかれらを偶像崇拜によって、最後の審判の日の炎の苦痛に招いているというのに、祖先の道に従うというのか。

〔22〕誰でもかれの顔をアッラーに向けて専心して善行に励む人は、救済を求める人のための堅固な取っ手を握った人で、それが断たれるのを恐れない。万事の結末はアッラーにあり、すべてが帰るところで、正価が報われるのである。

〔23〕使徒よ、誰かが信仰しなくても、かれの不信仰があなた(ムハンマド)を悩ましてはいけない。最後の日には、われらにかれらの帰り所はある。その時われらにかれらが現世で行ってきた悪事を、かれらに知らせる。そして報いるのだ。確かにアッラーは、(人間が)胸に抱くことをご存知で、何事も隠せないのだ。

〔24〕われらはしばらくかれらに享楽を与え、それから最後の日には酷い苦痛を強いるのだ。それは地獄の火である。

〔25〕使徒よ、あなたが偶像主義者たちに誰が諸天と地を創造したのかと問えば、かれらはアッラーと言う。かれらに言いなさい。あなた方に反して証拠を創ったアッラーに、すべての称賛あれ。でもかれらの多くは、誰が本当の称賛を受ける価値があるかを知らないが、それはかれら

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ يُولِجُ اللَّيْلَ فِي النَّهَارِ وَيُولِجُ النَّهَارَ فِي اللَّيْلِ
 وَسَخَّرَ الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ كُلٌّ يَجْرِي إِلَىٰ أَجَلٍ مُّسَمًّى وَأَنَّ اللَّهَ
 بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿٤٩﴾ ذَلِكَ بِأَنَّ اللَّهَ هُوَ الْحَقُّ وَأَنَّ مَا يَدْعُونَ
 مِنْ دُونِهِ الْبَطْلُ وَأَنَّ اللَّهَ هُوَ الْعَلِيُّ الْكَبِيرُ ﴿٥٠﴾ أَلَمْ تَرَ أَنَّ
 الْفُلْكَ تَجْرِي فِي الْبَحْرِ بِنِعْمَتِ اللَّهِ لِيُرِيكُمْ مِنْ آيَاتِهِ ۚ إِنَّ
 فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّكُلِّ صَبَّارٍ شَكُورٍ ﴿٥١﴾ وَإِذْ أَعَشَيْهِمْ مَوْجٌ
 كَأَظْلَمِ لَدَعُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ فَلَمَّا نَجَّاهُمْ إِلَى الْبَرِّ
 فَمِنْهُمْ مُّقْتَصِدٌ وَمَا يَجْحَدُ بِآيَاتِنَا إِلَّا كُلُّ خَتَّارٍ كَفُورٍ
 ﴿٥٢﴾ يَتَأَيَّهَا النَّاسُ أَتَقْوَرُ بَكُمُ وَأَخْشَوْا يَوْمًا لَا يَجْزِي وَالِدٌ
 عَنْ وَلَدِهِ وَلَا مَوْلُودٌ هُوَ جَانٍ عَنِ الْوَالِدِ ۗ وَشَيْءًا إِنْ وَعَدَ اللَّهُ
 حَقًّا فَلَا تَعْرَتُكُمْ الْحَيَاةُ الدُّنْيَا وَلَا يَغُرَّتْكُمْ بِاللَّهِ
 الْعُرُورُ ﴿٥٣﴾ إِنَّ اللَّهَ عِنْدَهُ وَعِلْمُ السَّاعَةِ وَيُنزِلُ الْغَيْثَ
 وَيَعْلَمُ مَا فِي الْأَرْحَامِ وَمَا تَدْرِي نَفْسٌ مَّاذَا تَكْسِبُ عَدًّا
 وَمَا تَدْرِي نَفْسٌ بِأَيِّ أَرْضٍ تَمُوتُ ۚ إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ خَبِيرٌ ﴿٥٤﴾

سورة التين
 ٣٣ آياتها

④⑨ あなたは見ないのか。アッラーが夜を短くして昼を長くされ、また昼を短くされて、夜を長くされる、そして太陽と月を軌道に従わせて、すべてが定められた期間を動いていることを。誠にアッラーは、あなたの方の行うことをご存知なのだ。あなたがすることはすべて隠せずに、熟知されて、報いられるのだ。

④⑩ それらの組織や評定は、アッラーこそが真理であることを証明している。**かれ**だけがその本質、属性、行為において真理であり、**かれ**を差し置いて多神教徒が祈るものは基礎のない虚偽であり、アッラーこそは自らが至高にして、すべての被創造物をしのご能力と力量を持ち、それを超えるものではなく、何よりも至大である。

④⑪ あなたは見ないのか。アッラーの恩恵によって船が海を進むのを。それは**かれ**が**かれ**の印をあなた方に示すためである。アッラーに栄光あれ、その力と優しさを示すための印から、そして確かに、その中には障害に辛抱し恵みに感謝するすべての人のための数々の印があることが見えて来ないのか。

④⑫ 大波と暗雲が全方向から船乗りを覆うとき、かれらは至誠を尽くしてアッラーに嘆願し祈るものである。でも、**かれ**がかれらを水没から救われて、無事陸地に運ぶと、かれらの中のある人は感謝をしなくなり、称賛・感謝にあやふやな状態になる。ただし、救われれば感謝すると言っていたのに忘恩となる裏切り者でない限り、そして従来何も感謝しなかったような人でない限り、誰も**われら**の印を否定しないのだ。

④⑬ 人びとよ、約束を履行し禁則を順守して、あなた方の主を意識しなさい。父がその子のために役に立たず、子もその父のために役に立たない最後の日を恐れなさい。誠にアッラーの報いの約束は真実で、完遂される。あなた方は現世の生活とその享楽に欺かれてはいけない。また悪魔の働きで、アッラーが寛容であり、懲罰を遅らせておられることについて、騙されてはいけない。

④⑭ 確かに、アッラーだけに審判の時の知識はある。また**かれ**は雨を降らせ、胎内にあるものが男か女か、あるいはうまく行くかどうかも知っている。でも人間は明日自分が善悪の何を稼ぐかを知らず、どここの地で死ぬかも知らないのだ。誠にアッラーは全知で、何事もお見通しの方なのだ。何も**かれ**から隠すことはできない。

本諸節の功德:

- 夜と昼の長短や、太陽や月の運行は、すべてアッラーの力量の証である。称賛と、その恵みに感謝を。
- 忍耐と感謝が、アッラーの印を熟慮する手立てとなる。
- 復活の恐怖を思えば、現世の驕慢を避けることができる。そして悪魔のつぶやきささやきに惑わされることもない。
- アッラーは見えない世界のすべてをご存じである。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

۱ تَنْزِيلُ الْكِتَابِ لَا رَيْبَ فِيهِ مِنْ رَبِّ الْعَالَمِينَ
 ۲ أَمْ يَقُولُونَ أَفْتَرَاهُ بَلْ هُوَ الْحَقُّ مِنْ رَبِّكَ لِتُنذِرَ قَوْمًا
 مَّا أَتَاهُمْ مِنْ نَذِيرٍ مِنْ قَبْلِكَ لَعَلَّهُمْ يَهْتَدُونَ ۳ اللَّهُ
 الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ
 ثُمَّ اسْتَوَى عَلَى الْعَرْشِ ۗ مَا لَكُمْ مِنْ دُونِهِ مِنْ وَلِيٍّ وَلَا شَفِيعٍ
 أَفَلَا تَتَذَكَّرُونَ ۴ يُدَبِّرُ الْأَمْرَ مِنَ السَّمَاءِ إِلَى الْأَرْضِ فُرُجُوعٌ
 إِلَيْهِ فِي يَوْمٍ كَانَ مِقْدَارُهُ أَلْفَ سَنَةٍ مِمَّا تَعُدُّونَ ۵ ذَلِكَ
 عَلِيمٌ الْغَيْبِ وَالشَّهَادَةِ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ۶ الَّذِي أَحْسَنَ
 كُلَّ شَيْءٍ خَلْقَهُ وَوَدَّ أَنْ خَلَقَ الْإِنْسَانَ مِنْ طِينٍ ۷ ثُمَّ جَعَلَ
 نَسْلَهُ مِنْ سُلَالَةٍ مِنْ مَاءٍ مَهِينٍ ۸ ثُمَّ سَوَّاهُ وَنَفَخَ فِيهِ مِنْ
 رُوحِهِ ۗ وَجَعَلَ لَكُمُ السَّمْعَ وَالْأَبْصَرَ وَالْأَفْئِدَةَ ۗ قَلِيلًا
 مَّا تَشْكُرُونَ ۹ وَقَالُوا أَإِذَا ضَلَلْنَا فِي الْأَرْضِ أَإِنَّا لَفِي
 خَلْقٍ جَدِيدٍ ۗ بَلْ هُمْ بِلِقَاءِ رَبِّهِمْ كَافِرُونَ ۱۰ قُلْ يَتُوقَلِكُمْ
 مَلَائِكَةُ الْمَوْتِ الَّتِي وَكَّلَ بِكُمْ إِلَىٰ رَبِّكُمْ تُرْجَعُونَ ۱۱

本章の趣旨:

創造と現世と来世の人間の状態の真実を示す。

説明:

① アリフ・ラーム・ミーム。雌牛章ですすでにこのような文字については、説明した。

② このムハンマド(平安を)がもたらした啓典(クルアーン)は、その中に全く疑いの余地はなく、すべての世界の主から啓示されたものである。

③ それなのに、不信仰者たちはかれ(ムハンマド)がそれを捏造して、主によるものだと言い張っていると言うのである。いや、それはあなたの主からの真理で、あなた以前にひとりの警告者も来なかった民に警告するためのものである。アッラーの懲罰についてであるが、そうすることでかれらは真実に導かれて、帰順し、励行するであろう。

④ アッラーこそは6日の間に諸天と地、また、それらの間のすべてのものを瞬きよりも早く創造し、さらにかれはかれ自身を荘厳な玉座の上に置かれた。あなた方にはかれの他に擁護者はなく、主の前で執り成す者もない。それでもあなた方は自分を創造したものを想い崇めないで他に崇拜しているのを止めないのか。

⑤ かれは、天から地までのすべてのものの創造を統率される。それから(復活の日)すべては、1日でかれへと昇る。その1日の長さは、あなた方が現世で計算する、1000年に相当する。

⑥ そのような方は、目に見えない世界と目に見える世界を(すべて)知っている方で、何も隠せないのだ。何も負かすことができないほど偉力大で、かつ敵には報復され、信仰する僕には慈悲深いお方なのである。

⑦ **かれ**こそが創造したすべてを最も完全で善美なものにし、土から何の前例もないアダムという人間の創造を始められた。

⑧ さらに**かれ**は漏れ出る水から精液から抽出して、その人間の後継者をもうけた。

⑨ さらに**かれ**は人間を形造り、**かれ**の魂を天使を通じてかれに吹き込み、そしてあなた方のために聴覚と視覚と理解するための心をもうけた。それなのにあなた方はこれらの潤沢な恵みについて、ほとんど感謝もしない。

⑩ 多神教徒たちは言う。死後われわれの身体は砂塵となり、地中に消え去り、そして確かにわたしたちはもう一度、新たに創造されるのか、それは理解されないと。いや、かれらは復活を信じない人びとなのである。

⑪ 使徒よ、多神教徒たちに言え。あなた方のことを任された死の天使があなた方の魂を刈り取って、それからあなた方を最後の日に**われら**に、清算と報いのために帰らせるのだ。

本諸節の功德:

- 使徒たちを遣わせるという英知は、人びとを真つぐな道に導くためである。
- 似たものや譬えのない形での、アッラーの支配(玉座着席)の描写の確かさ。
- 多神教徒たちは証拠にもかかわらず復活を拒否すること。

وَلَوْ تَرَىٰ إِذِ الْمَجْرُمُونَ نَاكِسُو أُرُؤِهِمْ عِنْدَ رَبِّهِمْ
 رَبَّنَا أَبْصَرْنَا وَسَمِعْنَا فَارْجِعْنَا نَعْمَلْ صَالِحًا إِنَّا مُوقِنُونَ ﴿١٦﴾
 وَلَوْ شِئْنَا لَآتَيْنَا كُلَّ نَفْسٍ هَدًى وَلَكِنْ حَقَّ
 الْقَوْلُ مِنِّي لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنَ الْجِنَّةِ وَالنَّاسِ أَجْمَعِينَ ﴿١٧﴾
 فَذُوقُوا إِمَّا نَسِيتُمْ لِقَاءَ يَوْمِكُمْ هَذَا إِنَّا نَسِينَاكُمْ
 وَذُوقُوا عَذَابَ الْخُلْدِ إِمَّا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿١٨﴾ إِنَّمَا يُؤْمِنُ
 بِعَايَتِنَا الَّذِينَ إِذَا ذُكِّرُوا بِهَا خَرُّوا سُجَّدًا وَسَبَّحُوا بِحَمْدِ
 رَبِّهِمْ وَهُمْ لَا يَسْتَكْبِرُونَ ﴿١٩﴾ تَتَجَاوَرُ جُنُودُهُمْ
 عَنِ الْمَضَاجِعِ يَدْعُونَ رَبَّهُمْ خَوْفًا وَطَمَعًا وَمِمَّا رَزَقْنَاهُمْ
 يُنفِقُونَ ﴿٢٠﴾ فَلَا تَعْلَمُ نَفْسٌ مَّا أُخْفِيَ لَهُم مِّن قُرَّةِ أَعْيُنٍ
 جَزَاءً لِّمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢١﴾ أَفَمَن كَانَ مُؤْمِنًا كَمَن كَانَ فَاسِقًا
 لَّا يَسْتَوُونَ ﴿٢٢﴾ أَمَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَالَهُمْ
 جَنَّاتُ الْمَأْوَىٰ نُزُلًا لِّمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢٣﴾ وَأَمَّا الَّذِينَ فَسَقُوا
 فَمَأْوَاهُمُ النَّارُ كُلَّمَا أَرَادُوا أَن يَخْرُجُوا مِنْهَا أُعِيدُوا فِيهَا
 وَقِيلَ لَهُمْ ذُوقُوا عَذَابَ النَّارِ الَّتِي كُنْتُمْ بِهِ تُكذِّبُونَ ﴿٢٤﴾

تسجدة

12 罪深い人たちが最後の審判では言う。かれらの主の前で恥辱にまみれて頭を垂れて、主よ、わたしたちは拒否していた復活を見て、使徒たちがもたらしたものを聞いたので、再び現世に戻してください、またあなたを喜ばせるようにわたしたちは善行に励みます、さらに、わたしたちはようやく復活と使徒たちがもたらしたメッセージを確信しましたと。これをあなたが見るならば、それは何と凄い景観だろうか。

13 もしわれらが望むなら、すべての魂に導きを与えることもできた。しかし知恵と正義の言葉が貫徹された。それはジンと人間という二つの荷物を一緒にして地獄を満たすというものである。かれらは不信仰と過ちの道を選択し、信仰と正道を取らなかったのだ。

14 最後の日にはかれらに非難がましく言われるのは、地獄を味わいなさい、あなた方がこの日の会見を忘れていたので、われらもあなた方がどれほど苦しい思いに会うかを構わないこととしたということ。あなた方が現世でしてきたことに対する、永遠の苦痛(懲罰)を味わいなさいと言われるのだ。

15 われらの印を信じる人とは、かれらにそれが述べられると身を投げだして平伏礼をし、かれらの主を称賛の言葉で賛美して、唱念する人たちである。かれらは高慢ではなく礼拝し、何時でも頭を下げるものである。

16 かれらはその寝床から離れて、アッラーに嘆願し、地獄の恐れとお赦しの慈悲を主に祈り、またわれらが与えた資財から施す。

17 かれらが現世で行ってきた善行に対する報奨であり、かれらの目の癒しとなる(喜ばせる)隠されたもの(善果)を、その膨大さのために誰も知らない。

18 教えを順守する信者は、背反する掟破りと同じではない。かれら両者は、アッラーの報奨において、同じではないのだ。

19 信仰して善行に勤しむ人びとにとっては誉の証ともなる樂園が住まいで、それはかれらが現世でしてきたことへの報奨である。

20 でも不信仰と犯した罪のために掟破りな人の住まいは、永遠に住むこととなる地獄の火だ。かれらがそこから出ようとする度に、その中に引き戻されて、こう非難がましく言われる。使徒たちが警告したのに、現世であなた方が否定してきた地獄の火の苦痛を味わいなさいと。

本諸節の功德:

- 不信仰者たちの信仰は、復活の日には何の役にも立たない。そこは報奨の場であり、行動(善行)の場ではないからだ。
- 復活の日にアッラーと会見することを失念するのは、危険であること。
- 夜の礼拝も信徒の道である。

وَلَنُذِيقَنَّهُمْ مِنَ الْعَذَابِ الْأَدْنَى دُونَ الْعَذَابِ الْأَكْبَرِ
 لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٢١﴾ وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ ذُكِّرَ بِآيَاتِ رَبِّهِ ثُمَّ
 أَعْرَضَ عَنْهَا إِنَّا مِنَ الْمُجْرِمِينَ مُنتَقِمُونَ ﴿٢٢﴾ وَلَقَدْ آتَيْنَا
 مُوسَى الْكِتَابَ فَلَا تَكُنْ فِي مِرْيَةٍ مِّن لِّقَائِهِ وَجَعَلْنَاهُ
 هُدًى لِّبَنِي إِسْرَائِيلَ ﴿٢٣﴾ وَجَعَلْنَا مِنْهُمْ أُمَّةً يَهْتَدُونَ بِأَمْرِنَا
 لَمَّا صَبَرُوا وَكَانُوا بِآيَاتِنَا يُوقِنُونَ ﴿٢٤﴾ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ
 بِفَصْلِ بَيْنَهُمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ فِيمَا كَانُوا فِيهِ يَتَخِفُونَ
 ﴿٢٥﴾ أَوَلَمْ يَهْدِ لَهُمْ كَمَا هَدَكْنَا مِنْ قَبْلِهِمْ مِّنَ الْفُرُونَ
 يَمْشُونَ فِي مَسْجِدِهِمْ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ أَفَلَا يَتَسَمَعُونَ
 ﴿٢٦﴾ أَوَلَمْ يَرَوْا أَنَّا نَسُوفُ الْمَاءَ إِلَى الْأَرْضِ الْجُرُزِ فَنُخْجِ
 بِهِ زُرْعَاتَهُمْ كُلٌّ مِّنْهُ أَعْمَهُمْ وَأَنْفُسُهُمْ أَفَلَا يُبْصِرُونَ
 ﴿٢٧﴾ وَيَقُولُونَ مَتَى هَذَا الْفَتْحُ إِن كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٢٨﴾
 قُلْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ لَا يَنْفَعُ الَّذِينَ كَفَرُوا إِيمَانُهُمْ وَلَا هُمْ
 يُنظَرُونَ ﴿٢٩﴾ فَأَعْرَضَ عَنْهُمْ وَانْتَظِرْ إِنَّهُمْ مُنْتَظَرُونَ ﴿٣٠﴾

②① われらはこれらの不信仰者たちに、現世において大きい(最後の日の)苦痛の前に、手近な苦痛をかれらに味わわせよう。そうすることで、かれらはアッラーへ戻ってくるかもしれない。

②② かれの主の印が諭されたのに、それから背き去る人よりも不正な人がいるだろう。確かにわれらは、罪深い人びとに報復する。かれらは不信仰であり、罪作りだからで、アッラーの言葉にも背いているのだ。

②③ 確かに、われらはムーサーに啓典(律法)を授けた。だから、あなた(ムハンマド)は夜の旅と昇天の夜においてかれに会ったことについて疑ってはいけない。われらはそれ(律法)をイスラエールの子孫たちの過ちからの導きとした。

②④ われらはイスラエールの子孫の間から人びとを真実に導く指導者をもうけた。かれらは人びとに対して、アッラーの許しによって、その命令に従って禁止を守るよう指導した。またそうしてアッラーの道のために傷付いても忍耐強く説いて、使徒たちに降ろされた印を強く信じて指導者となった。

②⑤ 確かにあなたの主は、かれらが現世で意見を異にしていたことについて、復活の日にかれらの間を裁決する。そうして真実の者と過ちの者を峻別され、それぞれに然るべく報いられる。

②⑥ かれら非信者たちに明らかにならなかったのか。かれら以前にわれらがどれだけ多くの世代を滅ぼしたかについて。かれらはかれら(滅ぼされた世代)の住まい(廃墟)を往来している。確かに、その中には数々の印があり、使徒たちの真実が証明されている。かれら(のメッセージ)はアッラーから来たのだが、その言葉を拒否する者たちは、頭(理屈)を使って注意深くそれを聞かないのか。

②⑦ また、われらが水を不毛の地に送り、それで穀物を育成させ、家畜およびかれら自身が食べるのを見ないのか。かれらは、不毛の地を蘇らせる方は、復活も問題ないことを見る目を持たないのか。

②⑧ かれらは復活を否定して、他方懲罰を急いで、次のように言う。あなた方が言うことが真実なら、最後の日の裁決はいつ来るのか、そしてその後の住まいという地獄や楽園が来るのはいつのことかと。

②⑨ 使徒よ、言いなさい。裁決の日に信仰しても、現世において不信仰であった人びとには益にならず、またかれらは改心するための猶予もされないのだ。

③⑩ 使徒よ、だから、あなたはかれらから離れて、アッラーが懲罰を下されるのを待ちなさい。かれらもまたあなたに突然不幸が襲うことを待っているのだ。しかし本当は、かれらは、破滅するのを待っているだけなのだ。

本諸節の功德:

- 不信仰者の現世での懲罰は、その改心のためである。
- 夜の旅と昇天の夜には、ムハンマドとムーサーが会ったことは間違いはない。
- 忍耐と確信は、教えの中での指導者たちの二つの特性である。

本章の趣旨:

預言者(平安と祝福を)をアッラーが守られて、その側近や家族も守られること。

説明:

① 預言者(ムハンマド)よ、従者と共に命令の履行と禁止の順守によってアッラーを意識し、堅固であるように。そしてアッラーを畏怖するように。非信者や偽信者に従ってはいけない。確かに、アッラーはかれらの画策をご存じで、その創造や管理において英明である。

② 主からあなたに啓示されたところに従いなさい。間違いなく、アッラーはあなた方の行くことを、知り尽くしておられる。何もそれを逃れるものはなく、行いにはその報いがある。

③ アッラーにすべてを託しなさい。確かに、アッラーは信者の保護者として万全である。

④ アッラーはどんな男の体にも、2つの心臓はもうけなかったし、またかれはあなた方が(相手が自分の母親の背中のように)ズイハール離婚する妻たちを、結婚が禁止されているあなた方の母親や姉妹のようにはしなかった。さらに、かれはあなた方の養子を、あなた方の実子としなかった。これらは、イスラームが禁止した無知の行いである。ズイハール離婚や養子を実子のように扱うという(イスラーム以前の慣行)は、あなた方が口先だけで言っていたことで、現実にはないことだ。妻は母親でないし、主張しても養子が実の子になるわけではない。一方、アッラーは真実を語り、僕はそれを実践して、アッラーは正しい道に導かれる。

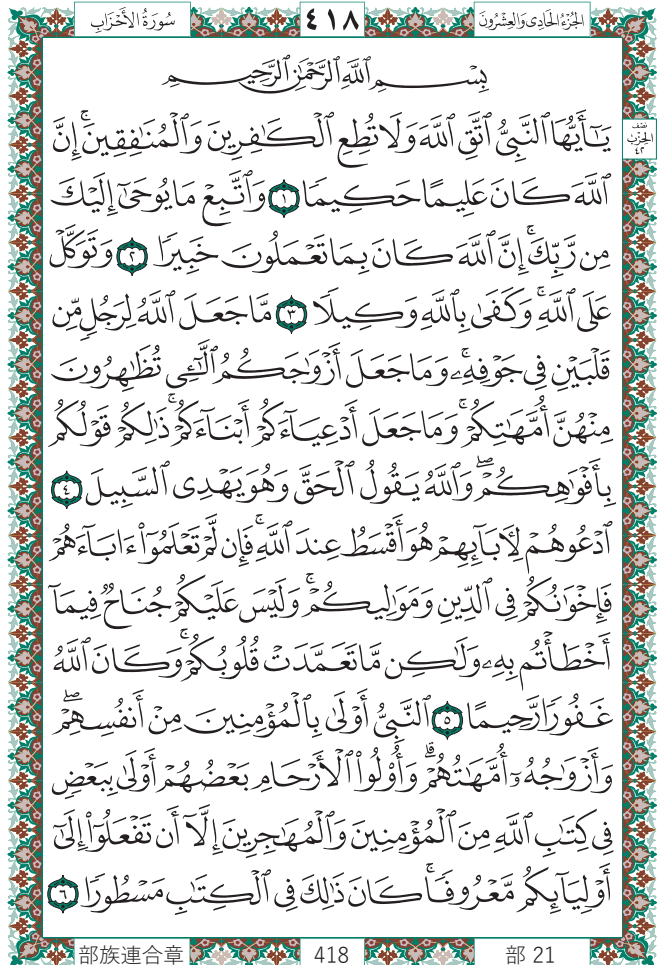
⑤ かれら(養子)の実父(の姓)で、かれらと呼びなさい。それがアッラーから見て、最も正しいのだ。たとえかれらの実父(の姓)が分からなくても、かれらは信仰上のあなた方の兄弟であり従兄弟の息子である。だから、兄弟よ、あるいは従兄弟よ、と呼びなさい。ただし呼び名について誤ることがあって、主張する人の名前を使用したりしても、罪はない。ただし、あなた方がわざとした場合は別で、罪となる。アッラーは改心する僕をよく赦す方であり、失敗につきそれを咎めることなく、慈悲深いお方である。

⑥ 預言者は信者たちに比べて、呼び掛けた事柄に関してかれら自身は他のことに傾いていたとしても、もっと権利を有しており、またかれの妻たちはかれら(信者たち)の母であり、預言者の死後も彼女たちとの結婚は許されない。

また実の血縁関係者は(マディーナの)信者(アンサール)や(マッカよりの)移住者(ムハージル)よりも(相続上)身近だ(権利がある)。イスラームの初期には、(信者たちは)契約によって相続権を持っていたのではあるが、もはやアッラーはそれを帳消しにされた。ただし信者よ、あなた方の親友のためには相続者でなくても、かれらのために遺贈したりして、相続において親切にしなさい。これは元の書板に記されている命令である。

本諸節の功德:

- 勸善懲惡の命令以上に、強大なものはない。
- この共同体に関する過ちの批判をなくすこと。
- 自分の望みよりも、預言者ムハンマド(平安を)の望みを優先する義務。
- 預言者ムハンマド(祝福を)の妻たちの身分の高さを明らかにして、かれの死後に彼女たちと結婚することは、禁止されていること。彼女たちは信者の母親なのである。



وَإِذْ أَخَذْنَا مِنَ النَّبِيِّينَ مِيثَاقَهُمْ وَمِنْكَ وَمِنْ نُوحٍ وَإِبْرَاهِيمَ
 وَمُوسَى وَعِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ وَأَخَذْنَا مِنْهُمْ مِيثَاقًا غَلِيظًا ﴿٧﴾
 لِيَسْأَلَ الصَّادِقِينَ عَنْ صِدْقِهِمْ وَأَعَدَّ لِلْكَافِرِينَ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿٨﴾
 يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا أَذْكُرُوا نِعْمَةَ اللَّهِ عَلَيْكُمْ إِذْ جَاءَتْكُمْ
 جُنُودٌ فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِيحًا وَجُنُودًا لَمْ تَرَوْهَا وَكَانَ اللَّهُ
 بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرًا ﴿٩﴾ إِذْ جَاءَكُمْ وَكَرِهْتُمْ مُؤْتَمِرِينَ وَمِنْ
 أَسْفَلِ
 مِنْكُمْ وَإِذْ زَاغَتْ الْأَبْصَارُ وَبَلَغَتِ الْقُلُوبُ الْحَنَاجِرَ
 وَتَظُنُّونَ بِاللَّهِ الظُّنُونَا ﴿١٠﴾ هُنَالِكَ ابْتُلِيَ الْمُؤْمِنُونَ وَزُلْزِلُوا
 زِلْزَالًا شَدِيدًا ﴿١١﴾ وَإِذْ يَقُولُ الْمُنَافِقُونَ وَالَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ
 مَّرَضٌ مَا وَعَدَنَا اللَّهُ وَرَسُولُهُ إِلَّا غُرُورًا ﴿١٢﴾ وَإِذْ قَالَتْ طَافِيَةٌ
 مِنْهُمْ يَا أَهْلَ يَثْرِبَ لَا مَقَامَ لَكُمْ فَارْجِعُوا وَيَسْتَأْذِنُ فَرِيقٌ
 مِنْهُمْ النَّبِيَّ يَقُولُونَ إِنَّ بُيُوتَنَا عَوْرَةٌ وَمَا هِيَ بِعَوْرَةٍ إِنْ يُرِيدُونَ
 إِلَّا الْفِرَارَ ﴿١٣﴾ وَلَوْ دَخَلَتْ عَلَيْهِمْ مِنْ آفْطَارِهِمْ سُلُوهُنَ لَأَنْتَوَّهُوا
 وَمَا تَلَبَّسُوا بِهَا إِلَّا لِيَسِيرًا ﴿١٤﴾ وَلَقَدْ كَانُوا عَاهِدُوا
 اللَّهَ مِنْ قَبْلُ أَنْ لَا يُؤَلَّفُوا الْأَدْبُرَ وَكَانَ عَهْدُ اللَّهِ مَسْئُولًا ﴿١٥﴾

国で不動となるという約束は、欺瞞であり、その基礎はないのだ。

⑬また、かれら偽善者の一団は言った。ヤスリブ(マディーナのイスラーム以前の旧名)の民よ、あなた方にはとても対抗できるものではない、塹壕近くのサルウの麓にあなた方の安住するところはない、だから家に引き返りなさいと。事実かれらのあるグループは預言者に(戦いからの帰還の)許しを願って、本当にわたしたちの家は(危険に)晒(さら)されていると言った。しかしかれらは晒されているのではなかった。ただ敵陣からの逃亡を望んだだけであった。

⑭もしかれら(大軍)がマディーナの四方からそこに侵入して来て、不信仰とアッラーに同列に配する裏切り(棄教)を呼びかけたなら、かれら(偽信者)は必ずこれを受け入れ、(ムスリムの敵となることに)少しもためらうことはなかっただろう。

⑮かれらはウフドの戦いにおいて逃亡したので、もし次回戦いがあれば決して背き去らないと、以前アッラーに誓っていた。しかしかれらは約束を破ったのだ。僕のアッラーとの約束には責任を伴い、必ずその人は問い正されるのだ。

本諸節の功德:

- 決意の使徒たちの、格別の地位。
- 困難に際して、アッラーは信者を援助されること。
- 試練に際して、偽善者が覚える信者の前での恥辱。

⑦また、われらが預言者たちからアッラーのみを崇拜し、どのような同列者も崇めずに、その啓示のメッセージを伝達することの誓約を取ったときのこと。あなた(ムハンマド)からも、またヌーフ、イブラーヒーム、ムーサー、マルヤムの子イーサーからも取った。われらは厳(おごそ)かに啓示のメッセージ伝達に関して、かれらから誓約を取った。

⑧かれが正直な使徒たちからさえもこのような厳しい誓約を取ったのは、かれらの正直さでもって不信仰者を黙らせるためであった。そして、かれは不信仰者のためには、厳しい苦痛(懲罰)を備えた。

⑨信仰する人たちよ、あなた方に与えられたアッラーの恩恵を思いなさい。大軍(部族連合軍)がマディーナにいるあなた方に攻め寄せて来たとき、不信仰者はあなた方と闘い、偽善者とユダヤ教徒たちはかれらを支持した。われらはかれらに対し預言者に有利な強い東風と、目に見えぬ軍勢(天使たち)を遣わした。そこで不信仰者たちは何もできずに、逃げ出すのみ。アッラーは、あなた方が行うことを洞察しておられる。何事も隠せず、アッラーの報いは間違いないのだ。

⑩かれら(大軍)があなた方の上から、また下から、そして東と西から襲って来たとき、目はそれを注視して、恐れ之余り心臓は喉もとまで突き出てきた。そしてあなた方はアッラーについていろいろと想像をして、時には支援を考え、またときには希望を失いかけていた。

⑪こうして塹壕の戦いでは、信者たちはより強力な敵軍との戦いで試みられ、かれらは恐ろしさのあまり酷い動揺に揺さぶられた。そして本当の信者と偽善者が判明した。

⑫そのとき、偽信者や疑念があり信心の弱い人たちは言った。アッラーとその使徒がわたしたちに勝利し、この

مَنْ الْمُؤْمِنِينَ رِجَالٌ صَدَقُوا مَا عَاهَدُوا اللَّهَ عَلَيْهِ فَمِنْهُمْ مَنْ قَضَىٰ نَحْبَهُ وَمِنْهُمْ مَنْ يَنْتَظِرُ وَمَا بَدَلُوا أَبَدًا ﴿٣٤﴾ لِيَجْزِيَ اللَّهُ الصَّادِقِينَ بِصِدْقِهِمْ وَيُعَذِّبَ الْمُفْضِلِينَ إِنْ شَاءَ أَوْ يَتُوبَ عَلَيْهِمْ إِنَّ اللَّهَ كَانَ غَفُورًا رَحِيمًا ﴿٣٥﴾ وَرَدَّ اللَّهُ الَّذِينَ كَفَرُوا بِغَيْظِهِمْ لَمْ يَنَالُوا خَيْرًا وَكَفَى اللَّهُ الْمُؤْمِنِينَ الْقِتَالَ وَكَانَ اللَّهُ قَوِيًّا عَزِيمًا ﴿٣٦﴾ وَأَنْزَلَ الَّذِينَ ظَاهَرُوا مِنْهُمْ مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ مِنْ صَيَاصِيهِمْ وَقَذَفَ فِي قُلُوبِهِمُ الرُّعْبَ فَرِيقًا تَقْتُلُونَ وَتَأْسِرُونَ فَرِيقًا ﴿٣٧﴾ وَأَوْرَثَكُمْ أَرْضَهُمْ وَدَيْرَهُمْ وَأَمْوَالَهُمْ وَأَرْضًا لَمْ تَطَّوُّوهَا وَكَانَ اللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرًا ﴿٣٨﴾ يَتَأَيَّأُ النَّبِيُّ قُلُوبَ الْأَرْوَاحِ إِنْ كُنْتُمْ تُرِيدُونَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا وَزِينَتَهَا فَتَعَالَىٰ أُمْتِعَكَ وَأَسْرِحَكَ سِرًا جَمِيلًا ﴿٣٩﴾ وَإِنْ كُنْتُمْ تُرِيدُونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَالذَّارَ الْآخِرَةَ فَإِنَّ اللَّهَ أَعَدَّ لِلْمُحْسِنَاتِ مِنْكُنَّ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿٤٠﴾ بِنِسَاءِ النَّبِيِّ مَنِ بَاتَتْ مِنْكُمْ بِفَحْشَةٍ مُّبَيَّنَةٍ يُضَعَفُ لَهَا الْعَذَابُ ضِعْفَيْنِ وَكَانَ ذَٰلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرًا ﴿٤١﴾

③③ 信者たちの中には、アッラーと結んだ約束に忠実で、ジハードにおいて堅固で忍耐強い人びとがいた。ある人は死んだり、殺害されたりしたが、殉教をまだ待っている人もいる。かれらは少しもその信念を変えないが、それは偽信者の約束破りとは違う。

③④ アッラーは誠実な人びとをその誠実さゆえに報い、またかれが御望みなら、偽信者たちを悔いる前に亡くならせて処罰し、あるいはその改心を受け入れ、かれらを赦す。真に、アッラーはよく赦す方であり、慈悲深いお方なのだ。

③⑤ アッラーが不信心な人びとを怒りのうちに撤退させたので、かれらは何も得るものがなかった。信者たちには砂嵐と天使を送られたが、戦いにおいてアッラーがいれば万全である。アッラーは誰よりも強力にして偉力大な方なのだ。

③⑥ また、かれはかれら(部族連合軍)を後援したユダヤ教徒を、かれらの誓から追い払い、その心の中に恐怖を投じた。あなたがたはその中のある一団を殺し、またある一団を捕虜とした。

③⑦ また、かれはかれら(ユダヤ教徒)を滅ぼしたのちに、その土地と穀物とヤシの木の所有者とし、さらに住宅や財産の所有者とした。またあなたがたの未踏の地であるハイバルをあなたがたに継がせた。これは信者にとって朗報であり、アッラーは、すべてのことに全能なのである。かれの能力を超えるものはない。

③⑧ 預言者ムハンマドよ、あなたの妻たちが望むような資財がないなら、彼女たちに言いなさい。もしあなたがたが現世の生活とその虚飾を望むなら、離婚される女性に対するものと同じ糧を与えよう。そしてわたしはあなたがたに危害も恥辱も与えずに、きっちり別れよう。

③⑨ でも、あなたがたがアッラーとかれの使徒の喜びと、そして樂園の住まいを求めるなら、自分の状況に忍耐強くあれ。アッラーはあなたがたの中で忍耐と仲間との協力により、善行に勤しむ者に偉大な報奨を準備している。

③⑩ 預言者の妻たちよ、あなたがたの中で明らかにみだらな行為を犯した人には、預言者の立場と地位、またその面目に鑑みて、審判での苦痛が倍加される。アッラーにとって、そのように倍加することは容易なことなのだ。

本諸節の功德:

- アッラーに預言者の教友たちが清められたのは、大きな誉である。
- アッラーを意識する者には、思いもよらない所から援助と支持の手が差し伸べられる。
- 部族連合軍を助けたユダヤ教徒の裏切りに対する処罰の激しいこと。
- 預言者の妻たちがアッラーと預言者を喜ばせることを選んだのは、彼女たちの強い信仰の表れである。